

# 令和 7 年ホヤ類調査結果速報 No. 4

令和 7 年 9 月 24 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html>】

9月18日に渡島管内八雲町黒岩地区で耳吊ホタテガイ付着物調査を行いました。また、同日に同町内浦地区沖合で海洋環境調査を実施しました。

## 結果概要

- **ホヤの新規付着を確認。新たな付着に注意**

5mm 未満の最近付着した個体が多数みられました。

- **ホヤの付着数はかなり少ない**

9月としては調査開始以来 2 番目に少ない付着数でした。

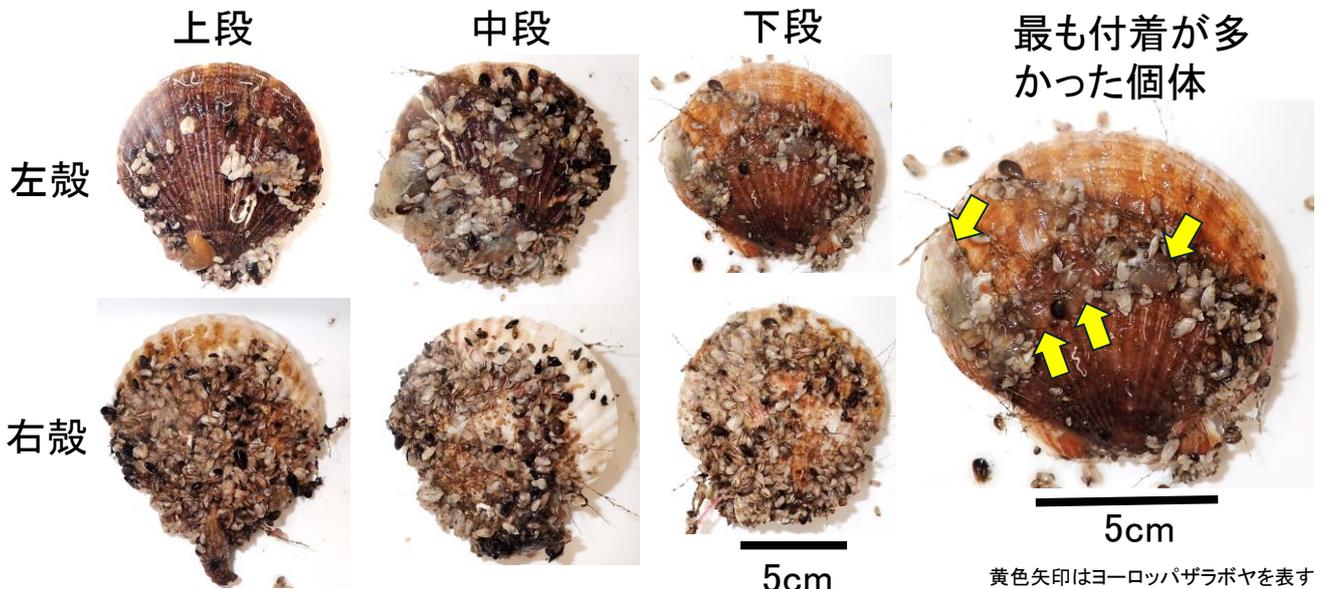
- **浅い層では高水温**

11m 層より浅い層は 23℃を超えています。

- **貝洗いの開始時期の判断は慎重に**

ホヤの新規付着が継続中のため、貝洗い後に新たにホヤが付着する恐れがあります。また、水温が高いので、貝洗いの開始は慎重に判断してください。

写真 ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ 令和 7 年 9 月 18 日 八雲町黒岩地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和 7 年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

# 耳吊りホタテ貝付着物調査

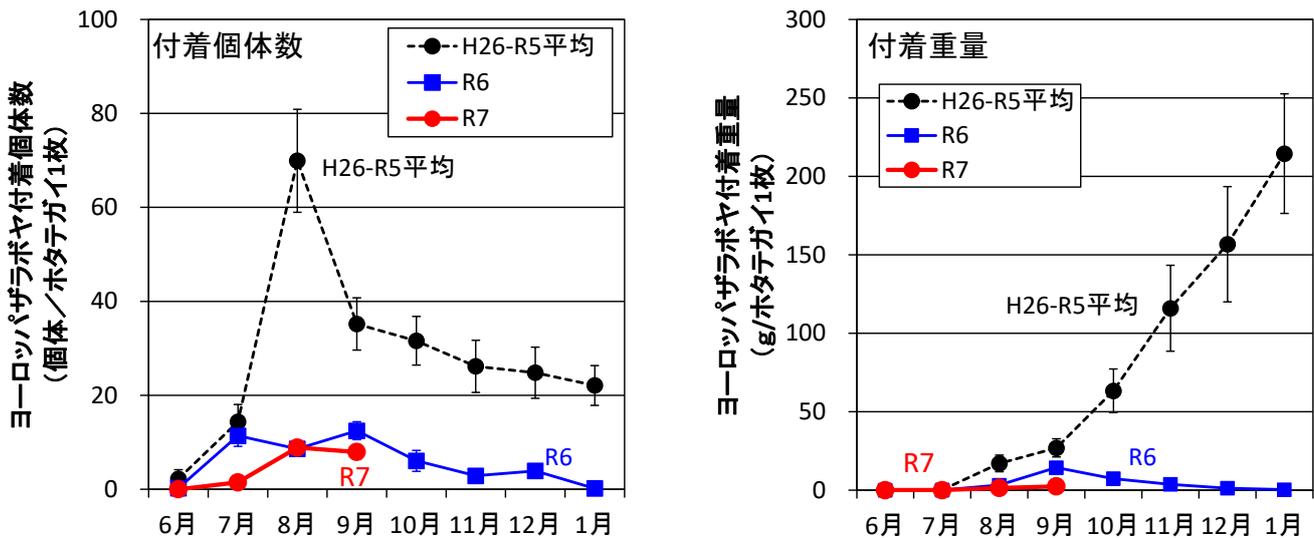
〔調査月日：9月18日、調査場所：八雲町黒岩沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(写真)。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり7.9個体であり、昨年(12.5個体)よりも少なかったです(表1、図1)。平均体長は10.8mmと昨年(20.4mm)よりも小さかったです(図2)。サイズ組成をみると、5mm未満の小型個体が多くみられ(図2)、新たにホヤが付着した様子です。さらに、40mmを超える大型個体も確認されており(図2)、サイズ範囲が広いのが特徴です。水温は11mよりも浅い層では23℃を超えており、浅い層の耳吊り貝は体力を消耗している可能性があります。新たな付着が継続中であり、かつ高水温であることを考慮すると、貝洗いの開始の判断は慎重にお願いします。

表1 付着生物調査結果(八雲町黒岩地区：令和7年9月18日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	21.9g	22.3g	14.8g	19.7g
ヨーロッパザラボヤ	1.3g	4.6g	1.2g	2.4g
その他	20.6g	17.8g	13.6g	17.3g
ヨーロッパザラボヤ個体数	7.0個体	9.2個体	7.6個体	7.9個体
令和6年9月(R6.9.24)の個体数	12.0個体	11.0個体	15.2個体	12.7個体
令和5年9月(R5.9.25)の個体数	2.4個体	7.6個体	1.8個体	3.9個体
令和4年9月(R4.9.21)の個体数	9.8個体	26.0個体	36.2個体	24.0個体

図1 ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化



左：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化  
 右：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化  
 各月のデータは全層(上層、中層、下層)の平均値で示しています(縦棒は標準誤差)。

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲町黒岩地区：令和7年6～9月）

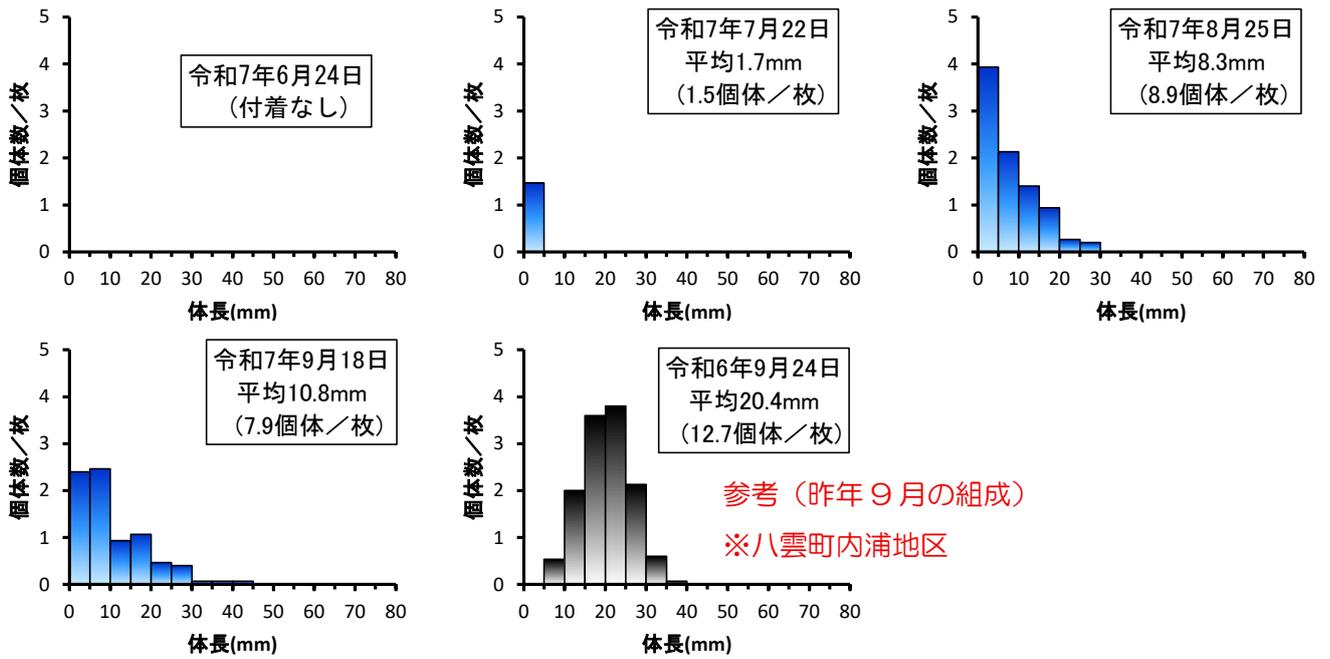


図3 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の令和7年9月18日の水温鉛直分布

● : R7年9月18日、● : R6年9月24日、▲ : H26-R5年8月の平均値

